

日本YWCAの使命(ミッション)

イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題

平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015

- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
 - ・平和憲法をまもり、世界に広める
 - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
 - ・女性と子どもの権利をまもる
 - ・パレスチナYWCAの活動を支援する
- (2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 10

OCT.2010

発行所 日本YWCA
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03・3264・0661
【駿河台オフィス】
〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11
東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121 / FAX 03・3292・6122
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 俣野尚子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)
www.ywca.or.jp



8月、116人が広島に集った。写真は本川小学校平和資料館前。

2010年ひろしまを考える旅&日韓ユース・カンファレンス 基調講演

21世紀を生きる人たちにへ

韓国併合100年の今年、ひろしまを考える旅と日韓ユースカンファレンスを協働プログラムとして実施しました。前号で、韓国併合100年を特集しましたが、今号では、協働プログラムを通して、在日韓国・朝鮮人の状況に焦点をあてて報告します。1面は「韓国の原爆被害者を救援する市民の会」広島支部長であり、長年、在韓被爆者の支援活動に力を尽くしてきた豊永恵三郎さんの講演を要約して紹介します。

1945年 私に9歳でした

我が家は爆心地から約2・5キロ離れた尾長町(現山根町)にありました。父は1942年に亡くなっており、母と3歳の弟の母子3人の生活は大変でした。

8月6日、私は、たまたま一人で爆心地から約8キロの安芸郡坂町におり、爆風で砂埃を浴びたものの怪我はしませんでした。広島は火の海で帰ることができず、爆心地から6〜7キロ離れた祖父の家になんとかたどり着きました。

爆弾が落ちた際に火の広がりを防ぐために、道の両側の家を破壊し道路を広くする「建物疎開」の作業に母は動員され、弟を連れて出かけており、爆心地から1・6〜1・7キロ離れた昭和町で爆撃されました。母は顔と片腕を火傷しましたが、弟は母が瞬間的に無我夢中で覆いかぶさったため無傷でした。私は、翌7日に母と弟を探しに市内に入りました。何百人という大怪我・大火傷の人々、どの人も皆真っ黒けで、顔を覗き込んでも見分けがつかない中、やっこの思いで二人を助け出すことができました。

家族3人、祖父の家を避難しましたが、母の火傷の治療はせず、キウウリやジャガイモをすりおろしたものをつけていました。弟は、母のおかげで熱線と爆風は防げましたが、たくさんの放射線を浴び、後発放射能障害で下痢が続き、一時は生命が危ぶまれました。母たちを探しに市内に入り残留放射能によって被曝した私も、11月になって下痢が続いて衰弱しましたが、親類たちの看病で、徐々に回復していきました。

戦後は祖母の住む町で、母が洋裁を教え、自分と弟も幼い頃からアルバイトをして家計を助けて何とか生きてきました。私は現在74歳、二つの癌を患い治療を続けながら、高校教師を退職した後は、修学旅行生に話をする等、平和運動をしています。

なぜ、在韓被爆者の取り組みをするようになったか話します

戦後住んでいた町には多くの在日韓国・朝鮮人が暮らしており、彼らへの差別がありました。私自身差別と気づかず、差別をしていました。そのことに気づいたのは、高校の教員になってからです。本名を名乗る在日の生徒は一人もおらず、自分たちの子どもの頃と差別構造が変わっていないことに初めて気づきました。その後、私たちは、在日韓国・朝鮮人の生徒たちが本名で堂々と生きていける学校を作ろうという運動を始めました。

1971年夏、教育視察として初めて韓国を訪れた折、韓国に住む被爆者に会い、日本の政府からも韓国の政府からも放置され、非常に悲惨な生活をしている状況を初めて知りました。1972年、大阪に「韓国の原爆被害者を救援する市民の会」が組織

され、これに参加し、以後、在韓被爆者の支援運動を続けています。

多くの韓国・朝鮮人が、広島・長崎で原爆にあつたのは、日本の国が朝鮮半島を植民地支配していたからです。しかし、その後日本の政府は、彼らに対してなら援助をしようとしてこなかった。そのことを本当に申し訳なく思い、この運動に加わっていききました。

国内被爆者と在外被爆者には大きな格差があります

政府が「被爆者援護法」の一部しか、在外被爆者に認めていません。例えば、私たち国内の被爆者は原爆手帳を持っており、医療費を国が出す、そういう補償があります。ところが在外被爆者の場合は、被爆者として認められても、医療費は上限があり年間17万1000円です。それ以上は自分で払いなさいというのが、今の日本政府の姿勢です。在外被爆者の医療費を日本にいる被爆者と同じように保証すること、これが残る課題の一つです。

アメリカやブラジルにも多くの被爆者がいます

戦後、移民等さまざまな形で国外に行った被爆者たちも、日本に住んでいないということで差別されてきました。このような状況の中、1996年頃からは在外被爆者が連帯し、日本政府に対して補償を求めてきました。韓国・アメリカ・ブラジルなどの被爆者が一緒になって交渉し、裁判をしていることを知ってください。一番残念に思うのは、北朝鮮に帰った被爆者です。多くの被爆者(約2000人)は、ましたが、今どのくらい生存されているか不明)は、国交がないということで、実態さえわかりません。その点が一番心残りです。

日本の若い人たちに、3つのお願ひがあります

一つめは、アメリカがなぜ原爆を投下したのかをしっかりと学び、考えてください。二つめは、日本がアジアの国を侵略した事実を知ってほしいということです。広島はかつて軍都としてアジア侵略の拠点でした。原爆の被害だけでなく、アジアにとって加害の地でもあったという事実も知ってください。三つめは被爆の実態をしっかりと学んでください。これまで被爆者が中心になり核兵器廃絶の運動をしてきましたが、被爆者の平均年齢が76歳となり、運動がしにくくなってきています。戦争のない、核兵器のない世の中にするために、私たちに代わって、皆さん自身が努力をして平和活動を担っていただきたい、そのことを願ひしたいと思います。しっかりと学び、「ヒロシマの心」を自分のものにして、多くの人に伝えていただきたいと思ひます。それが私の皆さんへの最後のお願ひです。

(文責・編集委員会)

私は「委員会」

金剛静慧

私は100年以上前、日本にYWCAが生まれた頃から、ずっと大切にされてきた委員会という制度です。いわばYWCAの「伝統」であり、「文化」そのものです。会の運営をする時、会員や職員が集まって私を構成してくれます。委員は意見を出し合って、皆の合意で決定し、進めていく極めて手間暇かかる方法ながら、実に民主的な制度です。委員会には、幹部(運営)委員会という、会員総会で選出され、YWCA全体に責任を持つ委員の集まりと、その下にあつて、組織運営を担当する常設の委員会があります。また必要に応じて小委員会や、実行委員会・プロジェクトなどが設けられます。委員会は古い会員と新しい会員が異なる意見をぶつけ合いながら、共に協力して創り上げていくもので、長い歴史の中で、委員会を通じて人が育ち、育てられるところです。もちろんグループ活動も交流と人が育つ大切な場所ですが、委員会はさまざまな運営の決定機関であり、委員はそのことに責任を持つ点が、グループと違つところで、「責任が人をつくる」とも言えます。

でも最近ちょっと委員会のあり方に異変が起こっているようですね。会員の高齢化・減少などのせいでしょうか、同じメンバーがどの委員会にもいたり、私の出番が少ないYWCAもあるようで残念です。また以前は開会というところで礼拝があつたり、感話があつたりして、委員一人ひとりの思いを共有し、心一つにして委員会を始めていたのですが、どうも近頃はカットされたり、敬遠されることもあるようで悲しいですね。公益法人化でYWCAの組織が変わつたり、またYWCAの事情が今までと変化しても、どうかこの委員会制度の趣旨を生かし、会員の総意でYWCAが運営されるよう切に願ひしています。

(横浜YWCA会員)



報告「ひろしまを考える旅&日韓ユース・カンファレンス」協働プログラム

あの日、被爆したのは日本人だけ?

猛暑の中、「あの日、被爆したのは日本人だけ?」をテーマに、日本各地からの参加者、世界各国からの留学生、そして中国・韓国YWCAからのゲストを含めた総勢116名は、広島を訪れて学び合いました。

40年目を迎えた「ひろしまを考える旅」(16日~18日)の前後に「日韓ユース・カンファレンス」(15日~19日)を合わせた協働プログラムは、韓国併合100年を念頭に企画され、なぜ被爆者に韓国・朝鮮人が多かったかという問いから歴史を学び、加害の事実にも向き合いました。それぞれの地へ戻った参加者は、「核」のない平和な世界を実現するための、具体的なアクションを始めていることでしょう。

基調講演の豊水恵三郎さんはじめ被爆証言をしてくださった方々、地元のご案内をしてくださった方々など、多くの皆様に支えられて無事にプログラムを終えましたことを感謝して報告します。

2010年ひろしまを考える旅&日韓ユース・カンファレンス
合同委員会委員長 横山由美子

日韓ユース・カンファレンス

2010年日韓ユース・カンファレンスは、韓国は15人、日本は22人、計37人が参加した。広島という地で、日韓の若者が集い、歴史や現在も続く問題について語り合う意味とは何なのだろうか。

日本は朝鮮半島を植民地化し、韓国・朝鮮人から、生命・尊厳等多くものを奪った。彼女らが、日本の植民地支配の終焉を原子爆弾の投下もたらさし、解放に導いたと考えるのも、当然だろう。初日に行われたディスカッションの中でも、韓国の参加者から、原爆については「戦争を終結させたもの」と考えていたという意見が出た。

ハルモニに聞く

この旅では、フィールドワークとして5コース①岡ヨシエさんに当時をうかがう②被爆した十字架と復興③文学から考えるひろしま④似島を巡る⑤在日朝鮮・韓国人被爆者の方に、当時から今日に至るお話を伺う⑥が設定されました。以下は、⑤の報告です。

私たちは午前中にキリスト教社会館訪問、午後には広島YWCAで「トンベックの会」との交流の時間をもちました。午前と午後、それぞれに在日韓国・朝鮮人被爆者の方のお話を伺いました。

言って笑った吉田さんのお顔はとても印象的です。午後には「トンベックの会」の方と交流の時間をもちました。「トンベックの会」とは、韓国人であること、女性であること、文字が読めないこと、三重苦を抱えた人たちのために開かれた日本語の識字教室のことです。



参加者・学生リーダー 菅野叶子
*ハルモニたちは通名を使われていました。未だ通名を使われないという事実が日本の課題です。

感想

● 私たちがどう行動に移せばいいのかを深く考えさせられました。日本人は被害者だと今までは思っていたのですが、朝鮮の人たちにひどいことをした加害者であることを知りました。お互いに苦しんでいる中でも、さらに弱い人をいじめる心になってしまう(人間を変えてしまう)戦争はとても恐ろしいです。私たちは平和な世界にするために学んできたことをたくさんの人に伝えていかなくてはと思います。

● 原爆の恐ろしさは、私の想像をはるかに越えたものでした。しかし戦争の残酷さ・恐ろしさを知ると同時に、明日への希望・平和への願いがふられてきました。戦争は、人間の欲望から始まるものだと思います。欲望のあり方の違いによって、人間性をまったく喪失した、暴力・侵略の方向に移行すること、この悲惨な歴史の事実(戦争と原爆)がありました。戦争には結局、勝者はいません!それは尽きることがない苦しみです。平和世代に生まれた私たちは、歴史を肝に銘じ、永続的な平和について真剣に考え、取り組んでいきたいと決意しました。

● 私たちがどう行動に移せばいいのかを深く考えさせられました。日本人は被害者だと今までは思っていたのですが、朝鮮の人たちにひどいことをした加害者であることを知りました。お互いに苦しんでいる中でも、さらに弱い人をいじめる心になってしまう(人間を変えてしまう)戦争はとても恐ろしいです。私たちは平和な世界にするために学んできたことをたくさんの人に伝えていかなくてはと思います。

● 4日間広島で過ごし、被爆者について多くを見、聞き、感じ、新たに知ったこともとても多かったです。被爆者の方の証言には、無残で、凄絶で、悲しいことがあまりにも多かったです。過去に立ち返ることができなくとも、このようにすることが再び起こらないようにすることは出来る、それが私たちのなすべき努めだと思ふ。日本人被爆者、韓国人被爆者、中国人被爆者等、皆大切な人であり、大切な生命である。本当の幸福は、私たち皆が平和

● 原爆の恐ろしさは、私の想像をはるかに越えたものでした。しかし戦争の残酷さ・恐ろしさを知ると同時に、明日への希望・平和への願いがふられてきました。戦争は、人間の欲望から始まるものと思います。欲望のあり方の違いによって、人間性をまったく喪失した、暴力・侵略の方向に移行すること、この悲惨な歴史の事実(戦争と原爆)がありました。戦争には結局、勝者はいません!それは尽きることがない苦しみです。平和世代に生まれた私たちは、歴史を肝に銘じ、永続的な平和について真剣に考え、取り組んでいきたいと決意しました。

10月第3週は 非暴力週間です

YWCA Week Without Violence



世界中で実に4人に1人の女性が、その一生の中で、親密なパートナーから性的暴行を受ける可能性があるとされています。

女性に対する暴力撲滅の活動は、世界YWCAの最優先課題です。毎年10月第3週のYWCA非暴力週間は、暴力のない世界を実現するために、地域社会が考え行動することを促す、世界的なキャンペーンです。1週間を通して、地域社会における暴力を根絶するために積極的な行動を始めることを、個人や団体に呼びかけます。

女性に対する暴力とは、性別によるもの、または結果的にそうなりえる暴力行為で、身体的・性的・精神的危害のほか、脅迫行為も含まれます。それらは公私の場に関わらず、威圧や独断的な自由の剥奪行為です。

暴力は身体的なものだけではありません

暴力は限りなく多様で、家族間で起こる精神的な暴力、家庭内で起こる女児への性的虐待、近親相姦、職場や教育現場での脅迫・セクハラ、戦時中の強姦、因習による女性性器の切除、その他女性たちへの伝統的習慣による嫌がらせ、売春行為の強要といった搾取に関わる暴力行為など、社会のいたるところで起きています。また、国家が関与する女性たちの人身売買なども挙げられます。

緊急を要する健康と人権の問題

女性に対する暴力は女性の人権の侵害で、緊急を要する健康の問題でもあります。暴力は、世界の16歳から44歳の女性たちの主な死亡や身体障害の原因になっています。癌と並んで死亡の原因や、妊娠・出産可能な年齢にある女性たちが不妊になる深刻な要因となっており、さらに交通事故やマラリアよりも、健康障害の大きな要因になっています。

(世界YWCA発行『Empowering Young Women to Lead Change』より)

■YWCA Week Without Violenceの活動として、さまざまなアイデアが考えられます。あなたも、家庭で、知人に、職場で、地域で、暴力NOの発信を!

- * 芸術や遊びを通して、小学生を対象とした紛争解決プログラム。
- * カップルのための紛争解決ワークショップ。また家族とティーンエイジャー向け。
- * デートDVやパートナーとの関係を考えるワークショップを大学で開催。
- * ヨガやメディテーションのクラスを持ち、心の安らぎを得る機会をつくる。
- * 夜、女性が恐怖感なく歩ける権利を求めて、「夜を取り戻してください」というパレード。
- * 虐待やレイプ・人身売買などの被害者を守る法的な整備を政府に求めるキャンペーン。
- * 人身売買の犠牲となった女性を対象とした、情報提供・ケア・カウンセリング。
- * 自尊感情を高めるワークショップ。
- * 平和をテーマとした、劇やダンス、コンサート。
- * 平和を求める活動に、同僚や知人を誘う。
- * 暴力を乗り越えて立ち上がった女性たちの話を共有するスペースの提供。
- * 非暴力で紛争を解決するスキルを、男の子や男性に教えるプログラム開発。少女と女性のために同様のプログラム開発。

(参考:世界YWCAホームページ)

(文責・編集委員会)



エフエソの信徒への手紙6章10節〜20節
「最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神の武器を身につけなさい」。(10〜11節)

私は、この箇所を読むたび、目に見えない神の武器がいつも自分をガードしているという心強さに鳥肌が立つぐらい感動します。神の武器は、抽象的なようであり、とても具体的です。「真理の帯」「正義の胸当て」「平和の福音を告げる準備という履物」「信仰の盾」「救いの兜」です。これらに加えて、自分からの攻撃のためにも武器が与えられています。それは、「霊の剣」、すなわち神の言葉です。しかし、その神の言葉で、霊の剣で人を刺すのではなく、それを持って祈っていくというのです。これは、この世の戦いとはまったく違う戦い方です。祈りが最大の攻撃なのです。霊の言葉をもって、霊に助けられて祈るという姿勢が、クリスチャンがあらゆる悪に対抗する方法であるというこの箇所は、私たちの生き方の基本を教えてくれていると思っています。人間のつくり出したもの、また自分自身に決して依り頼まない、そんな潔さがいつもほしいと思わされています。

石塚多美子 (日本バプテスタ同盟大島新生教会牧師)

ハイチ大地震募金報告

日本YWCAの「国際協力募金：ハイチ大地震被災者支援」に皆様からご寄付をいただきありがとうございました。募金総額は172万9,760円になりました。ハイチYWCAと世界YWCAから、支援の感謝とともに届いたハイチ復興のレポートの一部を紹介します。



子どもたちへの読み聞かせ
(ハイチYWCAユースセンターにて)

ハイチYWCAユースセンターで力を得る若者たち

ハイチYWCAは、世界YWCA・各国YWCAを通して受け取った支援金や物品の寄付によって、ペティオン・ヴィルにユースセンターを立ち上げることができました。センターの利用対象者は、地震によって多大な被害を受け、学校に復帰できないため教育を受けられず、社会的な活動に参加できない若者たちです。

プログラムは2コースあり、1つは3〜12歳の少女たちのため、もう1つは若い女性たちのためのグループです。少女のグループは、お祈りとディスカッションで毎日の活動を始め、読書やボードゲーム、歌やダンスなどの活動をします。また、児童心理学者による子どものためのグループセラピーを行っています。

ユースセンターのプログラムに参加する若い女性は、資金援助を受け、美術を学ぶコースに出席できます。毎週土曜日には、若い女性をエンパワーし、意欲を伸ばす多様なトピックについてのワークショップが開かれています。

センターへの参加希望は殺到していますが、財政的な制約のため、中でも最も支援を必要としている境遇にある子どもたちに限定して受け入れています。

プログラムはこれまで非常に成功しています。ユースセンターの担当であるメリッサ・コウポードは次のように述べています。「子どもたちの遊ぶ時の笑顔、食べる時の落ち着き、そしてセンターを去る時の心のこもった『ありがとう』が、子どもたちが『自分は高く評価され、理解され、受け入れられている』と感じていて、人との繋がりを養っているのだと教えてくれます。最初の頃には泣いてしまう子、心配そうにする子もいました。今ではユースセンターの至る所に笑顔があり、子どもたちがドアを開けて入ってくると、私たちはとてもうれしくなります」。

(翻訳協力: 山下真理子)



東京YWCA ガールズのための エンパワメントデー開催



「どうしてこんな悲しい絵ばかりあるの?」と幼い孫。「65年前に戦争があつて...。戦争というものはね...」と祖父は幼女と目線を合わせてゆっくりと穏やかに、しかし厳しい目で答えておられた。今年の絵画展でのひとコマであった。

「子どもたちに平和な未来を」のテーマのもと第28回原爆絵画展を7月28日〜31日まで開催した。内容は、広島平和文化センターから借用の被爆者による絵画、丸木美術館よりの絵画、県内被爆者による絵画や写真、また平和関連図書や絵本の展示に

りあるものでした。ニュースカメラマンとして、共同通信社で40年活躍され、現在もフォトジャーナリストとして真実を伝え続けておられる新藤健一さんを講師にお迎えし、7月3日に平和講演会を開催、約50人が参加しました。「世の中を変えるのはお母さん。男はずるい、何か企んでいる」と冒頭に話された時、数年前に世界YWCAグローバル基金の標題となった「男だけで決めると、世界はケンカばかりする」を思い出しました。超高速カメラで撮られた120枚の写真は、間違いなく「危い国」を伝えて余

りあるものでした。私たちの足元にも、六本木のヘリポートに横田・厚木から定期的に飛来する米空軍ヘリ。横田特殊弾薬庫。第七艦隊の拠点横須賀。横浜上瀬谷通信基地とP3C。華々しかった横浜国際航空宇宙展には、軍事産業のトップが顔を揃えテロップカット。沖縄の辺野古に面する大浦湾は、巨大アオサンゴの群生や、ウミガメとジュゴンが同時に生息する貴重な海です。軍事的に都合のよいとされるこの地に、今、ボーリング調査が入り、危険な爆発物の弾薬庫が存在する

HIV感染やDV(ドメスティック・バイオレンス)に対し、世界的に女性に弱い立場に置かれている。世界YWCAがこれらの社会課題に優先的に取り組むのも、解決には女性のエンパワメントとリーダーシップが重要であるとの認識からである。東京YWCAでは、その視点に立ち、HIV/AIDSへの取り組みを2007年度から開始。そしてこの8月21日(土)・22日(日)、年齢・国籍・生物学的性別を問わず、女性であることを楽しみたい「ガールズ」を対象に、若い女性のエンパワメントを目的として「GIRLS

4 地域(横浜・平塚・浦和・湘南) YWCA平和講演会 今 沖縄が私たちに 問いかけるもの

EVOLUTION「ガールズのためのエンパワメントデー」を開催。イベント作りは、「Y」世代で実践された。「ゲンキになるガールズTシャツコンテスト」では、社会から求められる女性像の窮屈さをメッセージ「姫様なんてRadious」に込めた女子高生が優勝。HIVポジティブ(陽性)女性のドキュメンタリー「DIAMONDS」の上映や、ハンドマッサージ、HIVやDVに関する学びの場も設置。29歳以下限定のガールズが主体的にセックスのことやパートナーとの対等性を考えるトークセッ

加え、入場者に参加していただく折り鶴コーナーや平和へのメッセージで作るピースツリー・コーナーなどであった。今年は最終日に、20年ぶりに中村里美さんを招き、「ピース・ライブ」歌と語りで伝える私のヒロシマ・ナガサキを開催した。シンガーソングライターの中村さんは「ネバー・アゲイン・キャンペーン」の1期生としてアメリカ各地の学校や施設で原爆映画を上映し、被爆者のメッセージを伝え、被爆者は自作の歌を通して平和を訴え続けておられる。「私のヒロシ

マ・ナガサキ」千回公演の一環として、今回のピース・ライブが実現した。中村さんの澄んだ歌声やヒロシマへの熱い思いを込めた語り、ギターリストの方々の情熱あふれる演奏に、高校生から90代までの約70名の聴衆が真の平和を求め強い絆で結ばれたひと時であった。

中村さんより広島市の被爆アオギリ2世の苗木をいただいた。アオギリの成長を見守りつつ、平和への思いをさらに強く持ち、来年の絵画展を充実させたく會員一同願っている。

誠実に力を合わせてまいりましょう。

甲府YWCA 葉袋洋子

甲府YWCA第28回原爆絵画展 歌と語りで伝える 「ヒロシマ・ナガサキ」



です。新石垣空港の存在等、日本の在日米軍の専用基地の70%以上がこの沖縄にある、それ自体が許されることではありません。沖縄YWCAの仲間が苦しんで闘っていること、私たち自身の問題です。

かつて日本の民主主義のために米国の宣教師たちは、日本女性の心血を注いで民主的な対等な仲間となつたはずですが、安全保障条約を平等なものへ改める努力をすべきです。世界にネットワークのあるYWCAは、女性の、お母さんの平和を求める目と心で、学びながら粘り強く

シオンでは、リアルな感情と経験がシェアされ好評を得た。今回のイベントには、ザ・ポディシヨップニッポン基金から一部助成を得て、開催場所の提供など多大なサポートを得た。キャンペーンは目に見える効果は図りにくいですが、ネットワークを活用し、社会課題に対する意識が広がる一歩となったことはひとつの成果だと考える。今後、HIVやDVの状況から若い女性をエンパワーするため事業展開の可能性を探っていきたい。

東京YWCA職員 金子まりな

中国YWCA訪問
7月2日〜6日、中国YWCAからの招きを受けて、日本YWCA会長・総幹事が中国YWCA・南京YWCA・上海YWCA

日本YWCA総幹事 西原美香子



「協力ありがとうございます」
賛助費
眞野あや 芳川雅美 井澤須美子
渡辺京子 芝次男 多喜百合子
庄子泰子 斎藤康代 杉村みどり
中島 睦 阿武 桂 佐々木洋子
松本彰雄 崔 善愛 谷山久美子
三宅文子 渡辺 肇 小谷野淳子
甲子敏江 甲子雅代 田中美紗子
牛島栄子 島津良子 伊藤富美子
藤岡綾子 田口美穂 小野小夜子
山本鉄子 荒川知子 吉村恵理子
西尾 操 乾 康子 早田紀子
齋藤喜子 高橋須賀子
奥水絹枝 田崎桂子 原 美根子
辻井夏子 一杉静子 三木キ子
須藤和子 牛尾保子 木下由美子
片山 恵 益田明美 露木美奈子
江副史子 石川紀子 黒沼ヒロエ
中山ふみ 吉田瑠璃 宇都宮芳子
濱田映子 吉田瑠璃 富岡美知子
向後理恵 土居松枝 小林貴久美
飯田 徹 井垣寿子 江尻美穂子
石原清美 阿部幸子 稲垣美奈子
小倉充子 小池久子 大野美知子
中谷美鈴 黒木順子 西谷さやか
西野和子 西田和子 尾崎裕美子
堀江孝子 平山芳子 大川孝子
常業俊子 松山恭子 大島和美
山田純子 白井裕子
有限会社 信和ハウス 齋藤喜子
世界YWCA賛助 齋藤喜子
オリブの木募金
白田治子 木下 順 中村美南子
寺島昭二 三浦 一徹 齋藤喜子
Racael Smile Box 齋藤喜子
大阪YWCA 広島YWCA
函館YWCA
平和教育資金
黒木順子 俣野尚子 横山由美子
日本YWCA指導者養成のための
日本YWCA指導者養成のための
寄付金
浦和YWCA
世界YWCA総会準備寄付金
林 悦子
国際協力基金
熊本YWCA 函館YWCA

日本YWCA総幹事 西原美香子